

## 就任の挨拶

### 沖縄から世界へ発信する教室をめざして

はじめまして、2022年10月1日付けで琉球大学病院 第一内科長（大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座 教授）を拝命しました、山本和子です。ヒトの重要な臓器である肺・消化管・肝臓、そして新型コロナウイルス感染症など全身感染症を専門とする内科です。沖縄県の医療・教育・研究の発展のため、精一杯尽力する所存です。

私は北九州市生まれ、博多・アメリカ（シカゴ）・佐賀育ちで、1999年に佐賀医科大学医学部を卒業しました。内科の初期研修は東京（国立国際医療研究センター病院）で行い、医師としての一步を踏み出しました。同院のエイズ・治療研究開発センターで感染症学の面白さに魅了されました。後期研修は長崎（長崎医療センター）で行い、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科をローテートし、どの分野も興味深かったのですが、疾患の幅が広く、感染症を診る機会の多い呼吸器内科を専攻とすることに決めました。長崎大学大学院で感染症と薬剤耐性の研究で医学博士を取得した後、長崎大学病院 第二内科に入局しました。免疫と感染症について深く学ぶためアメリカ（ボストン）で4年間研究留学を行いました。帰国後は感染症内科の立ち上げや、コロナ診療に奮闘して参り、今回このようなご縁をいただきました。

赴任してまだ日は浅いですが、沖縄県唯一の大学病院で、3つの内科のうち1つを主宰する重責を感じています。沖縄県の医療を支える人材を育むために、若人を魅了する医学研究と診療内容、そして医療人が沖縄で仕事を継続してくれるような環境づくりを県内医療機関とともに工夫していきたいと考えています。各分野の専門医をしっかりと育成し、中央や世界との連携を密接にして、それぞれの専門診療の更なるレベルアップを図りたいと考えています。また、沖縄は離島が多く地域医療の充実と平均化も大きな課題であり、現代の進歩した科学技術を上手に使う、隅々まで質の高い医療が提供できるようなシステム作りについても、県内医療機関と協力して作り上げていきたいと考えています。多くの若人が夢を持って集い、リサーチマインド、国際感覚、ダイバーシティ感覚を身につけ、伸び伸びと育てゆく教室を目指します。いつでも気軽に声をかけてください。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



山本 和子

第一内科長

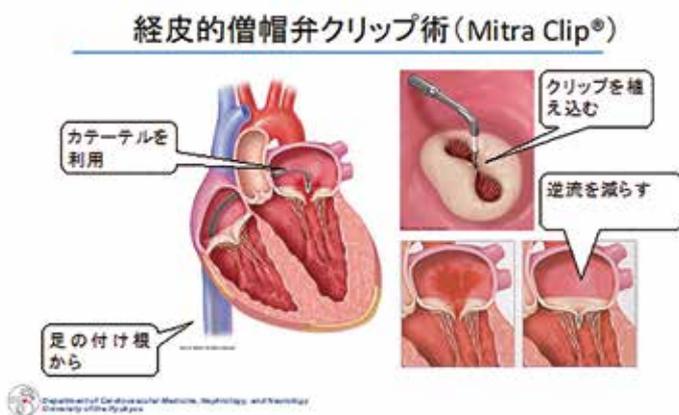
## 沖縄県初の僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル手術に成功

琉球大学病院 第三内科の池宮城秀一医師、當間裕一郎医師、岩淵成志特命教授らは、何らかの理由で外科手術が受けられない重症僧帽弁閉鎖不全症の患者さんに向けた新しい治療法である経皮的僧帽弁接合不全修復術（経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClip）に県内で初めて成功しました。

僧帽弁閉鎖不全症は、心臓の弁のひとつである僧帽弁が完全に閉じなくなり、左心室が収縮した際に血液が左心室から左心房に逆流してしまう病気です。発症には様々な原因があり、加齢、リウマチ熱、感染性心内膜炎、拡張型心筋症、心筋梗塞、慢性心房細動などにより、僧帽弁自体が裂けたり、僧帽弁を支える組織に不具合が生じて僧帽弁の位置がずれたりすることで弁が完全に閉じなくなります。重症の僧帽弁閉鎖不全になると息切れやむくみなどの心不全が出現し、命に関わる場合があります。薬物治療を十分に行っても心不全をコントロールできない重症の僧帽弁閉鎖不全に対しては、僧帽弁を修復または人工弁を置換する外科手術が一般的に推奨されますが、年齢や併発症のために外科手術を選択できる患者さんは多くありません。

経皮的僧帽弁接合不全修復術（経皮的僧帽弁クリップ術：MitraClip）は外科手術が何らかの理由で受けられない患者さんに向けた新しい治療法です。MitraClipは、全身麻酔下に足の付け根の血管よりカテーテルを挿入し、カテーテルを通して僧帽弁のずれを改善させ、逆流を減らすことのできる治療法です。胸を大きく切開せず、また、心臓を止めずに治療ができるため、外科的な弁置換術と比べて、患者さんの体への負担が少なくすることが可能です。術後、早期にリハビリを行うため、およそ1週間程度の入院で治療を行うことができます。2017年10月より日本でもMitraClipが認可され、2018年4月より保険適応となっています。2022年3月1日現在で全国95施設のみ実施施設に認定されており、琉球大学病院は、2021年10月に県内で唯一の実施施設に認定され、2021年12月22日に県内で初めてMitraClipを施行しました。2022年3月末までに3例の患者さんに治療を行い、全て無事に成功し、患者さんの術後経過も良好です。

これまで年齢や併存症のために手術を受けることが難しかった患者さんに対しても治療が可能となりました。ただし、すべての患者さんにMitraClipを施行できるわけではなく、僧帽弁の形態によりMitraClipの治療自体が困難な患者さんもいるため、最終的には循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、心臓リハビリテーションスタッフ、看護師、放射線技師、臨床工学技士で構成されたハートチームで十分にカンファレンスを行ったうえで、慎重に適応を決定しています。



記者会見の様子:右から、琉球大学病院長 大屋祐輔、第三内科・心臓血管低侵襲治療センター 特命教授 岩淵成志、第三内科 助教 池宮城秀一、第三内科 助教 當間裕一郎

## 沖縄県初 ～再生医療「治験」開始～

「再生医療」とは病気やケガなどで機能を失った組織や臓器を修復・再生する治療のことで、ヒトから採取した細胞を加工して移植することで失われた組織や臓器を再生することを目的としています。再生医療は従来の治療法では効果が得られなかった患者さんに対する新たな治療として大変な注目を集めており、琉球大学医学部でも2015年より再生医療研究を開始し、臨床応用を目指してきました。

再生医療では自分または他人から採取した細胞を培養し、対象となる組織や器官に合わせて加工した上で患者さんに移植しますが、使用する細胞を疾患治療のための「薬」として国に認めてもらうためには、「治験」というヒトに対する安全性と有効性を確認する厳格な臨床試験を実施しなければなりません。再生医療の分野でこの「治験」を実施することは極めてハードルが高いのですが、琉球大学医学部では2017年から形成外科の清水雄介教授とロート製薬株式会社が準備を進めて「再生医療の治験を実施できる体制の構築」を目指してきました。2020年には沖縄県商工労働部から「先端医療産業技術事業化推進事業」の助成を受けて体制構築を進め、2022年4月に再生医療に関する治験計画「包括的高度慢性下肢虚血に対する他家脂肪組織由来間葉系幹細胞幹細胞を用いた再生治療の治験」に関する治験計画届が独立行政法人医薬品医療機器総合機構に提出され、医師主導治験を開始できるようになりました。

包括的高度慢性下肢虚血とは、動脈硬化症や糖尿病など様々な原因で足の血流が悪くなり、足が壊死して切断や命の危険にさらされる疾患です。近年、世界はもとより沖縄でも患者さんが爆発的に増えています。通常は足の血管を広げる治療や人工血管を移植する手術が行われますが、症状が悪化しやすく治療が大変困難であることが知られています。今回の「治験」では、通常の治療では治らない患者さんを対象に、ロート製薬株式会社が製造した「他家脂肪組織由来間葉系幹細胞」を足の筋肉に注射する治療を試みます。

再生医療は今後の医療の発展に欠かすことができない分野であると認識されています。琉球大学では再生医療等製品の原料を海外からの輸入に頼っている国内の課題に取り組むための国のプロジェクトの一環として、「みらいバンク」を設置し、産業界と連携した再生医療の発展に取り組んでいます。



説明を行う清水雄介 教授



記者発表の様子:左から形成外科 清水雄介 教授、第二外科 古川浩二郎 教授、第二外科 仲栄真盛保 診療講師、臨床研究教育管理センター 植田真一郎 教授

## 琉球大学病院で初めての海外からの緊急患者さん受け入れ ～血液悪性腫瘍の疑いがあり一刻も早い診断・治療が必要だった事例～



患者さん受け入れ時、インドネシアからの搬送スタッフと

血液悪性腫瘍（血液のがん）の代表的疾患としてリンパ腫や白血病があります。進行が早く、合併症などから生命の危機に及ぶことが多いためできるだけ早く診断し、治療を開始する必要があります。検査や治療に関する専門性が高く、専門医による対応が必要です。今回、琉球大学病院として初めて海外から血液悪性腫瘍疑いの重症患者を受け入れ、診断を確定し、治療することができました。

**経緯:**令和4年7月、突然、インドネシアの病院から琉球大学病院第二内科に国際電話がありました。インドネシア在住で沖縄県出身の女性が、5月より発熱、肺炎などの感染症、皮疹を繰り返しており、原因不明のまま全身状態も衰弱しているため、精査加療の目的で沖縄の病院で受け入れることは可能かという相談でした。すでに沖縄の複数の医療機関へ連絡しているが新型コロナウイルス感染拡大に伴う診療制限のため受け入れを断られている状況でした。現地の医師によると、血液悪性腫瘍の疑いがあり、感染症も合併しているがこれ以上の精査はできない、酸素投与も必要な状態であり、飛行機での移動が可能なら早めに転院させたいとの依頼でした。この患者さんは発症から数ヶ月が経過しており、送られてきた血液検査データやカルテ情報から、重症の寝たきり状態で呼吸状態も悪く、一刻も早く診断・治療が必要と考えられました。

**琉球大学病院での対応:**海外からの患者さんの受け入れは本院で初めてでしたが、各部署との連携により対応しました。医事課と地域・国際医療部の国際医療支援室は緊急ビザの発行手続きを、地域連携室は空港から病院までの緊急搬送の手配についてのアドバイスを、感染対策室は予想される感染症（コロナウイルス、結核、チフス、抗菌薬耐性菌）について対応しました。現地病院の医療コーディネーターによる緊急搬送用の飛行機の手配も含めて、たくさんの方との連携・協力により、空路から陸路まで円滑に本院まで搬送し、入院していただくことができました。

**今後の方針:**アジアの医療拠点として、海外からの患者さんにも対応し、急を要する専門的な精査・加療が必要となった際にはタイミングを逸することなく、国境を超えて、最適な医療を提供していきたいと思えます。

## 沖縄健康医療拠点

# 「琉球大学医学部及び病院」整備に伴う市民説明会

お知らせ

現在「キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）」跡地において、沖縄健康医療拠点構想を実現すべく、琉球大学医学部および病院の移転整備事業が進行中です。

移転後の琉球大学医学部および病院の施設概要や教育・研究及び診療機能の拡充内容などを市民の皆様により深く知ってもらうため、令和5年2月8日（水）に宜野湾市民会館において説明会を開催しました。説明会では、大屋理事・病院長の開会のあいさつから始まり、新キャンパス施設概要、新病院の沖縄健康医療拠点形成に向けた取組、研究等の取組紹介、大学施設の市民利用について紹介を行いました。

参加者は80名を超え、活発な質疑応答も行われました。



説明会の様子



説明会の様子(説明者)



進捗写真(北西側)

当日資料については、琉球大学上原地区キャンパス移転事業ホームページからダウンロードができます。(通信量が大きいため、wifi環境での接続をおすすめします。)  
(QRコード)リンク▶ <https://r-itenn.skr.u-ryukyu.ac.jp/citizenbriefingsession/>



お知らせ

## 患者・ご家族の皆さんへお願い

### 患者・ご家族の皆さんへお願い

現在、医師をはじめ、医療従事者の長時間におよぶ過重労働が大きな社会問題となっております。

このことを踏まえ本院では、患者さんへ提供する医療の質と安全を確保する観点からも、医療従事者が疲弊せずに働けるよう、時間外労働の縮減に取り組んでいます。

この取組のひとつとして、

緊急ではない場合の病状説明等は  
原則、平日の診療時間内  
8:30~17:15

といたします。

今後も、病める人の立場に立った  
安心・安全で信頼される医療を提供  
することに努めて参りますので、  
皆様のご理解とご協力の程、よろ  
しくお願い申し上げます。



琉球大学病院

# 確認重要!!

あなたのために

# 姓と名 生年月日



何度も聞いて  
ごめんなさい。

安全管理対策室

患者さまの「希望の声」にて要望がありました  
**沖縄県ちゅらパーキング利用証制度の  
 協力区画として  
 本院の駐車場を登録しました。**

「沖縄県ちゅらパーキング利用証制度」とは、歩行困難者専用駐車場を適正にご利用いただくために、障害のある人、高齢者、妊産婦などのうち、歩行が困難な方、移動の際に特別な配慮が必要な方に共通の「利用証」を交付する制度です。  
 必要とする方の駐車区画を確保するために、ご理解とご協力をお願いします。



利用証をお持ちでない方

沖縄県が定めた基準に該当する方には、沖縄県障害福祉課、各市町村障害者福祉担当課等において、「ちゅらパーキング利用証」を発行しています。お手数ですが、最寄りの窓口で申請してくださいませようよろしくお願いします。

<問い合わせ先> 沖縄県 子ども生活福祉部 障害福祉課 電話:098-866-2190 mail: aa029017@pref.okinawa.lg.jp



琉球大学医学部及び病院交通対策委員会

専門外来診療日割表

Table with columns for medical departments (診療科), specialized clinics (専門外来), and days of the week (月, 火, 水, 木, 金). Rows include departments like Internal Medicine (内科), Surgery (外科), Pediatrics (小児科), etc., with specific clinic names and availability indicators (red dots).